

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成26年2月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

病理診断医と診療情報管理士

遠藤 希之

仙台厚生病院 臨床検査センター
病理診断・臨床検査科 診断部長

皆さんは「《病理診断》医」という職種をご存知でしょうか?もしかすると《病理診断》にはあまりなじみがないかもしれませんが、「病理」あるいは「病理学」という言葉は聞いたことはあるのではないかと思います。「病理」をごく簡単に説明するとしたら《病気の理由》と言い換えてもいいかもしれません。したがって病理学も《病気の理由・病気の成り立ちの学問》と考えてもらって差し支えないと思います。

英語では病理学を“pathology”と言い、ギリシア語の“pathos”という言葉に由来しています。“pathos”はもともと「悩み」や「苦しみ」を表していましたが、そこから「病」という意味が派生してきたとされています。それに“-logy”《～学》という接尾語がつき“pathology”ができました。そのものずばり「病の学問」です。

そして、「病理診断」とは病理学＝病の学問、で研究された成果をもとに、病変部から採取された組織を肉眼や顕微鏡で観察し、病気の「最終診断」を行う「医療行為」なのです。私も「病理診断医」は頭皮のできものから足裏の黒子まで、全身のあらゆる病変組織について最終診断を行っています。医師国家試験に合格するには八百程度の代表的な疾患の知識が必要とされていますが、病理診断医は八千種類以上の疾患を診断できなければいけない、とも言われています。

ところで私どもの病院には9人の診療情報管理士が在籍しており、医事課やDPC管理室、診療情報室に所属し日々の業務にいそんでいます。実は管理士と病理診断医は意外に関わりが深く、毎日のように連絡を取り合っています。診療報酬請求の際、臨床的には適切な診断名をつけるのが悩ましい場合も起こりえますが、病理診断医が意見を求められ最終診断名を調整することもあります。また未だに良性・悪性の区別が曖昧な腫瘍も少なくありません。

例えばB3型胸腺腫という疾患がありますが、しばしば再発、転移をきたし、WHO分類では「高分化型胸腺癌」との別名も記載されています。ところがICD-O codeでは8585/1と良性の区分に入っているのです。近い将来改訂がなされると思いますが、現時点では縦隔良性腫瘍としたらいいのか、悪性なのか、診療報酬上はどうなるのか、と悩ましいことになっています。

そこで病理診断医、つまり「病の学問」の専門家に訊ねてもらえると・・・転移・再発の実例(当院でも多数あります)を挙げて、コードがどうであれ悪性腫瘍と考えるべき、という意見(と必要であれば意見書も)が得られることとなります。今後はさらになん登録の義務化なども生じてくるため、ますます管理士さんとの連携が深まっていくことになるでしょう。

病院という施設は非常に多彩な職種が協力しあって成り立っています。中には、人知れず「最終診断」に心を砕いている医師もおります。もし皆さんの勤務している施設、あるいは近くに病理診断医がいましたら、是非、お話すの機会を持ってみてください。きっと有意義な時間を過ごすことができることでしょう。

最後に、皆さんが他職種とも積極的に交流し、見分を広めて立派な診療情報管理士に育たれることをお祈りしつつ、巻頭言とさせていただきます。

